

## 2021年度 活動状況

※定款第4条該当項

※	演奏会名	演奏回数	入場者数	備 考	
第一項第一、二号	自主公演	定期演奏会	18回	15,880人	Aシリーズ 東京文化会館 6回 Bシリーズ サントリーホール 5回 Cシリーズ 東京芸術劇場 7回
		プロムナードコンサート	4回	3,619人	サントリーホール 4回
		特別演奏会	7回	8,717人	<都響スペシャル> サントリーホール 1回 <第九> 東京芸術劇場、東京文化会館、サントリーホール 各1回 <その他> 名古屋特別公演 1回 大阪特別公演 1回 Fate/Grand Order Orchestra Concert 1回
		小 計	29回	28,216人	
	共催・提携公演	オペラ夏の祭典2019-20 Japan*Tokyo*World	0回	0人	共催：東京都 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館
		TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL2021 [サラダ音楽祭]	5回	1,811人	共催：東京都 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 豊島区 東大和市民会館ハミングホール 公益財団法人武蔵野文化事業団
		オーケストラ・キャラバン	2回	1,146人	共催：公益社団法人日本オーケストラ連盟 山陽新聞社 高知県立県民文化ホール、高知新聞社、RKC高知放送
		都響・調布シリーズ	0回	0人	提携：公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
		都響×アプリコ	1回	547人	共催：公益財団法人大田区文化振興協会
		ふれあいコンサート	0回	0人	共催：東京都、公益財団法人日本チャリティ協会
		ボクとわたしとオーケストラ	0回	0人	共催：株式会社いわき市民コミュニティ放送 NPO法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会 いわき芸術文化交流館アリオス
	小 計	8回	3,504人		
	依頼公演	18回	19,673人	地方公共団体、文化振興団体等	
第一項第二号	学校訪問事業	63回	8,738人	主催：各区市教育委員会等	
	音楽鑑賞教室	13回	11,523人	主催：各区市教育委員会等 都内19区市、他1校	
	マエストロ・ビジット	0回	0人		
第一項第二、三号	映像配信等	13回 [17回]	—	映像配信及び配信用収録	
	小規模演奏会等	55回	8,447人		
	公開リハーサル	0回	0人		
	公開ゲネプロ	0回	0人		
	放送・録音	CD、DVD用録音等	0回 [5回]	—	[ ] 内は同時録音等
		CD、DVD制作	0回 [0回]	—	[ ] 内は同時録音等
		放送用録音、放送	15回	—	
小 計	15回 [5回]	—	下記 注1 参照		
合 計		214回	80,101人		

注1 「映像配信等」「放送・録音」の [ ] 内は自主公演等の同時録音等であり、外書である。

<参考>公益財団法人東京都交響楽団定款

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 公開演奏
- 二 青少年のための演奏事業
- 三 その他の音楽芸術普及事業
- 四 その他前条の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業を推進するために行う音楽演奏事業及びその他の付帯事業

3 第一項及び第二項の事業は東京都において行うものとする。

## 1 事業の概要

新型コロナウイルス感染症の影響とその水際対策により、海外からアーティストが入国できない等、当初の計画どおりに公演を開催できない状況が続いたが、代替のアーティストを手配し、曲目を変更する等、柔軟な対応を取り演奏活動を実施した。

楽団が主催する自主公演は、楽団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会をソワレ公演の A シリーズ（東京文化会館）・B シリーズ（サントリーホール）、マチネ公演の C シリーズ（東京芸術劇場）の計 18 回実施。また、親しみやすいプログラムを中心として幅広い層に親しまれているプロムナードコンサートを 4 回、そのほか、特別演奏会として「第九」公演や名古屋・大阪等での公演を 7 回実施し、合計 29 回、約 2.8 万人を動員した。なお、定期演奏会及びプロムナードコンサートは、昨年度に引き続き会員券の販売は行わず、1 回券のみ販売した。

共催・提携公演は、東京都とともに「TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]」のオーケストラ公演を池袋の東京芸術劇場で 3 公演、多摩地域で 2 公演開催したほか、公益社団法人日本オーケストラ連盟他との共催による「オーケストラ・キャラバン」（岡山・高知）公演、公益財団法人大田区文化振興協会との共催の「都響×アプリコ」公演を開催、合計 8 回実施した。

地方公共団体や文化振興団体等からの依頼公演は、東京・春・音楽祭、フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2021、オペラ夏の祭典等、合計 18 公演に出演した。

青少年を対象とした音楽鑑賞教室（オーケストラ公演）を都内 5 区市と私立学校 1 校にて 13 回実施、また、校外学習や課外活動の実施が困難な状況に鑑み、学校訪問事業（アンサンブル公演）を都内にて合計 63 回実施し、オーケストラ鑑賞の機会や演奏家とのふれあいを通じて、約 2 万人の子供たちに音楽の喜びや楽しさを伝えた。

小規模演奏会は、多摩・島しょ地域、東日本大震災の被災地での演奏を継続的に実施したほか、2019 年度から開始した教育庁との連携事業や「サラダ音楽祭」でのミニコンサート等、合計 55 回実施した。

音楽監督の大野和士のもと、前回東京オリンピックのレガシーオーケストラとして、東京 2020 大会とその文化プログラムにおける音楽分野の中核事業を担い、多彩な演奏活動を展開した。特に音楽監督 大野和士指揮のもと録音した《オリンピック讃歌》の演奏がオリンピックの開会式で全世界に生中継されたことは、特に大きな話題を呼んだ。

また、メディアへの露出も積極的に行い、ファンの拡大を図った。2021 年の大晦日には都響として初めて NHK 紅白歌合戦に出演し、国民的ゲームとして人気を誇る「ドラゴンクエスト」の音楽を生演奏で披露したほか、TOKYO MX2 の番組『アンコール！都響』では月 1 回のペースで、過去の演奏会から厳選した曲をノーカットで放送している。加えて演奏映像のインターネット配信に力を入れ、ライブ配信や配信用映像の収録等、多岐にわたる活動を繰り広げた。

新型コロナウイルス感染症の影響により中止公演は計 65 回（自主公演 9 回、共催・提携公演 5 回、音楽鑑賞教室 38 回、小規模演奏会 12 回、放送・録音 1 回）。依然として演奏活動において様々な制約を受けた 1 年ではあったが、芸術性の高い先駆的で多彩な活動に取り組み、計 214 事業、約 8 万人に演奏をお届けした。

## 2 事業の内容

2021年度の演奏活動は、定期演奏会を中心に年間214事業を実施した。

### I 公開演奏（定款第4条第1項第1、2号）

#### (1) 自主公演

##### ア 定期演奏会（18回）

当団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会は、1965年の楽団創立以来、創造性に満ちた幅広い内容の企画による演奏会開催を目標とし、日本の音楽創造活動の牽引力となるべく、高い水準の先駆的な活動を継続している。

Aシリーズを文化会館で6回、Bシリーズをサントリーホールで5回、Cシリーズを東京芸術劇場で7回（うち3回は平日昼開催）、合計18回開催した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響やオミクロン株に対する水際措置の強化等により計6回開催を中止した。

音楽監督大野和士は6公演に登壇し、5つのプログラムを指揮。いずれも高水準の演奏で聴衆から高い支持を得た。シーズン幕開けの第924回ではマーラーの出世作となった交響曲第1番《巨人》とカレヴィ・アホのティンパニ協奏曲を都響首席奏者の安藤芳広のソロで日本初演し、圧巻のパフォーマンスで観客を魅了した。

第936回、第937回では、ツェムリンスキー生誕150年を記念し、歌劇『フィレンツェの悲劇（日本語字幕付き）』を演奏会形式で採り上げる予定であったが、海外から招聘予定の出演者が入国に必要な隔離期間等に対応できないため、R.シュトラウスの交響詩に差し替えてツェムリンスキーのメーテルリンクの詩による6つの歌（独唱：藤村実穂子）と共にお届けした。また、第939回には、オミクロン株に対する水際措置の強化に伴い出演を断念したサッシャ・ゲツェルに代わり出演し、ピアニスト阪田知樹をソリストに迎えてロシア・プログラムを指揮し、オーケストラとの深い信頼関係が窺える演奏で公演を成功に導いた。

第943回は、都響首席奏者の柳原佑介のソロでニールセンのフルート協奏曲のほか、大野のセンスが光る煌びやかなプログラムを披露し、広く日本中に話題を発信した。続く第944回では、2021年秋に開催されたショパン国際ピアノコンクールで第4位に入賞したピアニストの小林愛実の独奏によるベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番とショスタコーヴィチの交響曲第10番を指揮し、大いに注目を集めた。

首席客演指揮者アラン・ギルバートは、アメリカ民謡を多数引用したコラージュ的な作曲手法が特徴のアイヴスの交響曲第2番等、アメリカの作曲家をフィーチャーしたプログラムを第930回で指揮した。また、第931回ではこれまでアラン・ギルバートが特に共感をもって採り上げてきたペッテションの交響曲第7番とジャズピアニストの小曾根真をソリストに迎えたラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を組み合わせた意欲的なプログラムで聴衆を魅了した。さらに、第947回では、2019年7月に交響曲第4番《ロマンティック》で好評を博したブルックナー作品から交響曲第7番を指揮し、都響から生き生きとしたリアクションを引き出した（都響スペシャルと同演目）。

終身名誉指揮者小泉和裕は、第928回でオネゲルの交響曲第3番《典礼風》とフ

オーレのレクイエムを、第 933 回でシューベルトの交響曲第 5 番とチャイコフスキーの交響曲第 5 番を指揮し、各作品の関連性や対比を味わうプログラムをお届けした。

桂冠指揮者エリアフ・インバルは、第 945 回、第 946 回でショスタコーヴィチ《交響曲第 13 番《バービイ・ヤール》(日本語字幕付き)》を満を持して採り上げる予定であったが、来日に向けた検査で新型コロナウイルスの陽性判定を受けたことから、来日を断念した。

客演指揮者を迎えた各公演においても新型コロナウイルス感染症の影響とその水際対策により、海外アーティストを迎えることができず内容の変更を余儀なくされる公演も少なくなかったが、出演者それぞれの音楽性を発揮するバラエティ豊かなプログラムを展開した。

第 927 回は、井上道義が 11 年振りに定期演奏会に登場。新世代をリードするヴァイオリニスト辻彩奈とオルガニスト石丸由佳を独奏に迎え、フランスの作曲家の作品に焦点を当てた彩色豊かなプログラムで聴衆を惹きつけた。第 929 回では、深みのある音楽を聴かせる秋山和慶が指揮を務め、シベリウスのヴァイオリン協奏曲(独奏：金川真弓)とプロコフィエフの交響曲第 7 番をお届けした。欧州で活躍中の指揮者デイヴィッド・レイランドが都響に初登場した第 934 回では、シューマンを得意とするマエストロが、歌劇『ゲノフェーファ』序曲と交響曲第 2 番、そしてモーツァルトのピアノ協奏曲第 24 番(独奏：北村朋幹)で実力を発揮した。第 935 回には、急逝したオリヴァー・ナッセンに代わって 2018 年 9 月の定期を指揮したローレンス・レネスが再登場し、ワーグナーとプロコフィエフの魅力を伝えた。第 938 回にはミラノ・スカラ座等でも活躍する指揮者ジョン・アクセルロッドが初登壇。チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲(独奏：南紫音)とストラヴィンスキーのバレエ音楽《火の鳥》(1910 年版)を指揮し、多彩な表現力で都響の実力を存分に引き出した。また、第 940 回、第 941 回ではイギリス音楽に造詣の深い尾高忠明がディリアスの歌劇とエルガーのチェロ協奏曲(独奏：横坂源)とチャイコフスキーの交響曲第 6 番《悲愴》を披露した。

## イ プロムナードコンサート(4回)

プロムナードコンサートは、親しみやすい名曲と第一級の出演者がステージを彩る休日マチネのコンサートとして、幅広い音楽ファンから好評を得ているシリーズである。2021 年度はサントリーホールで 4 回実施し、クラシック音楽入門者も楽しめるプログラムでオーケストラ音楽の一層の浸透を図るとともに、次代を担う才能たち、とりわけ日本人の若手演奏家を数多く迎える機会となった。なお、No. 394 は指揮者が新型コロナウイルスに感染したことを受けて開催を中止した。

No. 392 は下野竜也の指揮で、日本音楽コンクール第 1 位の大関万結がブルッフのヴァイオリン協奏曲第 2 番を、また、No. 393 は終身名誉指揮者小泉和裕の指揮で、ミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門優勝の佐藤晴真がドヴォルザークのチェロ協奏曲で実力を示した。さらに、英国を中心に活躍の場を広げる 2002 年生まれの富田心が No. 395 に登場し、グラズノフのヴァイオリン協奏曲でジョン・アクセルロッドと共演した。

No. 396 に登壇予定であった桂冠指揮者エリアフ・インバルは、来日に向けた検査

で新型コロナウイルスの陽性判定となり急遽来日を見送ったが、代わって首席客演指揮者のアラン・ギルバートが指揮を務め、当初から予定していたバルトーク、リスト、コダーイ作品による「ハンガリーの名曲集」で息の合った熱演を繰り広げた。

## ウ 特別演奏会（7回）

### ① 都響スペシャル（1回）

2022年3月に、首席客演指揮者アラン・ギルバートがアイスランドの作曲家アンナ・ソルヴァルドスドッティルの《メタコスモス》（日本初演）、ブルックナーの交響曲第7番を指揮した（第947回定期演奏会と同演目）。

### ② 第九公演（3回）

年末恒例の「第九」公演を2年ぶりに開催。大野和士の指揮により、東京芸術劇場、東京文化会館、サントリーホールにて各1回実施した。

### ③ その他（3回）

4月に大野和士と共に2019年以来となる大阪特別公演・名古屋特別公演を実施。幅広い音楽ファンに都響サウンドを提供した。

スマートフォン向け大人気ゲーム『Fate/Grand Order』の音楽を迫力のオーケストラサウンドでお届けする「Fate / Grand Order Orchestra Concert」（9月）ではオーケストラに馴染みの薄い方に都響をアピールするとともにオーケストラ音楽の裾野拡大に貢献した。

## （2）共催・提携公演（8回）

### ア オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇄Tokyo⇄World（東京文化会館）（中止）

日本を代表する各地の劇場と連携して展開する国際的なオペラプロジェクトとして、音楽監督大野和士の指揮で、ワーグナーの超大作『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を予定していたが、公演関係者の新型コロナウイルス感染が確認され、最終舞台稽古を行えない等、公演の準備が整わないことから開催を中止した。

### イ TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]（5回）

「サラダ音楽祭」は、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の中核プログラムとして、東京都と都響が東京芸術劇場及び豊島区と連携し2018年度より開催している音楽祭である。本音楽祭では、サラダ=SaLaDの由来である「Sing and Listen and Dance～歌う！聴く！踊る！」をコンセプトに、赤ちゃんから大人まで誰もが参加して一緒に楽しめるオーケストラコンサートやワークショップ等、様々なプログラムを展開している。

オーケストラ公演は、0歳児から入場可能なコンサート「OK！オーケストラ」（2公演）と演出振付家の金森穰が率いる日本を代表するダンスカンパニーNoism Company Niigata（ノイズム・カンパニー・ニイガタ）とコラボレーションした音楽祭「メインコンサート」のほか、2011年度から2020年度まで多摩・島しょ地域で開催していた「プレミアムコンサート ～未来へのハーモニー～」（主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京）を本年度から「サラダ音楽祭」に統合し、多摩地域で2公演開催した。さらに、「歌」や「ダンス」、「演奏」等のワークショップに加え、多摩地域での室内楽公演を開催した。

#### ウ オーケストラ・キャラバン ～オーケストラと心に響くひとときを～（2回）

文化庁の「大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業」の一環として、地域の文化芸術の振興を推進する目的で日本オーケストラ連盟に加盟する 21 のオーケストラが参加した事業である。都響は岡山市と高知市で公演を実施した（指揮：下野竜也）。

#### エ 都響・調布シリーズ（0回）

多摩地域での演奏活動の活性化を意図したシリーズで、ホールと連携を図り地域との繋がりを深めている。2001 年度から公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携により実施している。本年度は実施困難な状況のため、実施していない。

#### オ 都響×アプリコ（1回）

公益財団法人大田区文化振興協会との共催事業として、身近なホールでの演奏会開催を望む音楽ファンの期待に応えるべく、10 月に大田区民ホール・アプリコで大友直人の指揮のもと、モーツァルトとメンデルスゾーンの名曲プログラムをお届けした。

#### カ ふれあいコンサート（中止）

障害を持つ方やそのご家族を対象とした演奏会を、東京都及び公益財団法人日本チャリティ協会と連携して実施しており、本年度は 38 回目の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止した。

#### キ ボクとわたしとオーケストラ（中止）

東日本大震災後の 2012 年 2 月に、福島県いわき市内全域の小中学生を対象とした初めてのオーケストラ公演を開催して以来、いわき市の子供たちを音楽で励ます目的で実施している。2021 年 10 月に株式会社いわき市民コミュニティ放送（SEA WAVE FM いわき）、NPO 法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会、いわき芸術文化交流館アリオスとの共催で開催予定だったが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で中止。代わって、室内楽公演を来場予定であったいわき市内の小・中学校で実施した。

### （3）依頼公演（18回）

#### ア 都内

東京・春・音楽祭（4月）、東京オペラシティ「コンポージウム」公演（5月）、メトロポリス・クラシックス公演（10月）、オペラ夏の祭典 2019-20 Japan◊Tokyo◊World（新国立劇場）（11月・12月 計5回）、日赤チャリティーコンサート（1月）、横山幸雄 30 周年公演（1月）、フレッシュ名曲コンサート（2月）、都民芸術フェスティバル公演（3月）といった多彩な公演に出演した。

加えて、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館が主催する演奏会にも出演しており、東京文化会館開館 60 周年記念公演（4月）、「響の森」コンサート（6月・1月）に出演した。

## イ 地方・近郊公演

フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2021（7月）、白河公演（10月）、石巻公演（2月）に出演し、都響の認知拡大とともにオーケストラ音楽の一層の浸透と裾野の拡大を図った。

## II 青少年のための演奏（定款第4条第1項第2号）

### （1）学校訪問事業（63回）

校外学習や課外活動の実施が困難な教育現場の状況に鑑み、音楽鑑賞教室の代替として、小・中学校の児童・生徒を対象に校内での小規模アンサンブルでの鑑賞プログラムを江戸川区・新宿区・中央区・調布市で合計63回実施した。

### （2）音楽鑑賞教室（13回）

次代を担う子供たちに質の良い音楽を提供し、音楽・文化を愛する若者を育てていくことは、青少年育成に力を注ぐ都響の重要な使命の一つである。事前に教員や教育委員会などと打ち合わせを重ね、子供たちに親しみやすい曲から本格的なクラシック音楽まで、プログラム、企画、構成など工夫を凝らしており、子供たちのみならず関係者にも好評を得ている。本年度は都内5区市の各小中学生、都内の私立学校1校を対象に各地のホールにて13回実施した。なお、昨年度に続き、校外学習や課外活動の実施は困難な状況にあり、38回を中止とした。

### （3）マエストロ・ビジット（0回）

都響指揮者（マエストロ）自らが、楽員とともに都内小・中学校等を訪問して特別授業を行い、子供たちとの対話を通じて音楽とオーケストラへの理解と音楽を創り上げていく楽しさや興味を深める取組である。本年度は実施困難な状況のため、実施していない。

## III その他の事業（定款第4条第1項第2、3号及び第2項）

### （1）映像配信等（13回〔17回〕〔〕内は同時録音等）

新型コロナウイルス感染症の影響による映像コンテンツの需要拡大に伴い、YouTube等での映像配信を継続して実施し、自主公演における新規の収録配信のほか、過去公演の映像等を配信した。

9月開催の「東京都交響楽団 特別公演 Fate/Grand Order Orchestra Concert」ではニコニコ生放送にてライブ配信を実施。普段都響の演奏会に足を運んだことのない方へ向け、都響の演奏に触れる機会を創出し、ファンの拡大を図った。

とりわけ東京2020大会の関連イベントに出演し、その模様が配信されたことは、都響の存在感を国内外に示す機会となった。

### （2）小規模演奏会等（55回）

顔の見えるオーケストラとしてより多くの方々へ音楽を届けることを目指し、2002年度から小規模アンサンブルを中心としたアウトリーチ型の演奏会を積極的に実施し

ている。

「サラダ音楽祭」の一環として、気軽に楽しめるミニコンサートを多摩エリアで実施し、多くの方々に演奏を楽しんでいただいた。2019年度から開始した教育庁との連携によるオリンピック・パラリンピック教育推進支援事業では、都内小・中学校でアウトリーチ活動を行った。また、大田区、江戸川区、葛飾区、千葉県野田市の学校に出向き室内楽公演を実施したほか、三宅村、小笠原村での島しょ公演等、様々な場所で演奏会を実施し、好評を博した。

福島県いわき市内全域の小中学生を対象としたオーケストラ公演「ボクとわたしとオーケストラ」を2012年2月以来、継続的に開催しているが、新型コロナウイルスの感染再拡大を受け、2021年度もオーケストラ公演は中止とした。代わりに都響メンバーが3つの室内楽を編成し、いわき市内の小・中学校11校を訪問。子どもたちとの交流を大切に築きながら演奏をお届けした。

なお、一部の小規模演奏会はコロナ禍のため開催を中止している。

### (3) 公開リハーサル・ゲネプロ (0回)

例年 TMSO サポーターを対象とした公開ゲネプロ及び依頼公演で公開リハーサルを開催しているが、本年度は実施困難な状況のため、実施していない。

### (4) 放送・録音 (15回〔5回〕〔〕内は同時録音等)

音楽監督 大野和士指揮のもと録音した《オリンピック讃歌》の演奏が東京2020オリンピック競技大会の開会式で全世界に生中継されたことは、特に大きな話題を呼んだ。メディアへの露出を積極的に行った。2021年の大晦日には都響として初めてNHK紅白歌合戦に出演し、国民的ゲームとして人気を誇る「ドラゴンクエスト」の音楽を生演奏で披露したほか、TOKYO MX2の番組『アンコール!都響』では月1回のペースで、過去の演奏会から厳選した曲をノーカットで放送した。このほか、CD化を想定し同時録音を実施した。